
最強動物決定戦！

ソルトウォーター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最強動物決定戦！

【Nコード】

N3893BA

【作者名】

ソルトウォーター

【あらすじ】

人類の次に繁栄する種族を決める、《最強動物決定戦》。不運にも【ヒト】代表に選ばれてしまった少年、市谷勇人はどうなるのか。そして優勝して繁栄する種族は何なのか？初投稿です。

プロローグ（前書き）

初投稿です。文がメチャクチャですいません……。ご意見、ご感想をおまちしております。

プロローグ

もし、突然神の声が聞こえたらどうする？

もし、世界一を決める戦いに参加しろと言われたらどうする？

もし………

『オマエ、………【ヒト】代表な』

もし、人気のない桜並木の道を一人で歩いていた時に、誰かの声はどこからともなく聞こえたらどうする？

「………はあ？」

ヒト代表……？なんのことだ？俺は確かに人だが、ただの健全な中学3年の日本男子だ。霊感や超能力があるわけでもない。そんな俺がオカルトチックな謎の声が聞こえるわけが無い………もしかして、頭でも打ったかな？それじゃ、急いで病院に

『オマエは正常だ。だから落ち着け、市谷^{いちたにゆうじ}勇人。』

「なぜ俺の名前を知っている！？つーかお前誰だよ！」

『俺はオマエ等の国の言葉では、「神の使い」といったところだ。』

オマエは、人間の次に繁栄する種族を決める戦い、《最強動物決定戦》の【ヒト】代表に選ばれたんだ。』

「最強動物……決定戦？」

『そうだ。オマエは他の動物たちと戦って、勝って人類が滅ばないようにしないといけない。』

「他の代表が勝ったら？」

『人類は滅び、優勝した種族が繁栄する。昔、恐竜が滅びたのもこのためだ。わかったか？』

「ああ、わかった。」

『そうか。理解が早いな。』

「わかったわかった。お前が頭のイカれた変人のオッサンだってこ

とは充分にわかった。」

『……オマエ、死にたいのか？』

「はっはっは、やれるもんならやってみ」

言い終わる前に、目の前に鉄らしきものでできた、スタンプラリーで使うようなハンコが超高速で落ちてきた。まるで隕石と言わんばかりに、シューシューと音を立てて煙が出ている。地面にクレーターが出来なかったのが不思議なくらいだ。しかしその前に……『これをオマエの頭上に落としてもよかったんだぞ？』このお怒り中のオツサン……もとい、自称神の使いをどうにかしたほうがよさそうだ。

「私ごとき人間が神の使い様に逆らって申し訳ありませんでした。」

『わかったなら、左手の甲を前に出せ。』

「？」

言われたとおり、パンチのようにして左手を前に出す。

すると、さつき落つこちてきた巨大なハンコがひとりでに宙に浮いて、俺の左手の甲に印を押しした。

改めて言うが、このハンコは大気圏に突入した隕石のごとく、熱せられていたのである。当然、

ジユウウウウツ！

「ぎゃあああああ！」

熱い！左手がとけそうだ！あまりの熱さに、俺は気を失った……。

『そうそう、【ヒト】代表の能力は……』

薄れゆく意識のなかでそんな声が聞こえた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3893ba/>

最強動物決定戦！

2012年1月10日01時50分発行